

石木ダム建設に対して建設絶対反対の立場からの意見

石木ダム建設絶対反対同盟

○ 予備調査開始

私達は石木ダム建設問題が持ち上がったときより、地域住民が一丸となって、石木ダム建設には「絶対反対」の声を上げ反対しました。1972年長崎県は地質調査を行うにあたって、地質調査はあくまで石木川河川開発調査であってダム建設にはつながらない、「地元の人一人でも反対するならダムは造らない」調査だけでもさせていただけませんかと説明し、町長が土下座までして頼むので仕方なく。地質調査だけならとゆうことで、「地元の同意が得られなければ独断専行しない」、「強制執行等の行為に出た場合は総力を挙げて阻止行動をとる」等の覚書を交わし調査だけならと、長崎県や町の言葉を信じ同意したが、

○ 石木ダム建設絶対反対同盟結成

しかし県は、74年地質調査が完了するやいなや「国の石木ダム建設予算がつきました」と、地元には何の説明もなく一方的に発表した。

私達は、「何やそりゃ・冗談じゃなかばいと」、石木ダム建設絶対反対同盟を結成し、県庁に行き知事に抗議したところ当時知事であった久保知事は「一人でも反対する人がいればダムは造れないし造らない」と約束されたが、

○ 反対同盟の切くずし

その舌の根も乾かぬうちに、反対同盟役員への「飲ませ食わせ」や、いつまでも反対していると「土地収用法で家屋敷取り上げられますよ」といった脅しなど、反対同盟への切り崩しを行い、県職員
個別訪問祖先より培われてきた地域の融和が破壊され、親族も疎開に成亀裂が生じた、現在でも昔みtainな和気藹々とした融和が取れず亀裂が生じたままで、悲劇であります。

○ 強制測量

また、1982年長崎県は反対地権者が話し合いに応じてくれないもうこれ以上待てない、タイムリミットだとして、地元住民の強い反対を押し切って、5月21日から述べ7日間に渡り400名の機動隊を動員し、土地収用法第十一条による強制測量を行ったが、この行為は、長崎県が残した最大の汚点のひとつと言えるのではないか。

地元住民の強い反対、また県民の強い反発に合いその後予定されていた2次測量は中止されている、当時のことは今でも目に焼きついて忘れることは出来ません。

○ 事業認定の申請

2009年11月長崎県は、反対地権者との話し合いを行うため、うそぶき、私たちの家屋敷を強制収用するため事業認定の申請を行いました、

県が言うように事業認定が認可されたら話し合の場がもてるのですか。

泥棒が刃物をちらつかせながら金を出せと脅しているのと同じではないのですか、こういった行為をなんというのでしょうか、強盗というのではないのですか、県がやろうとしていることは、これとまったく同じことで強制収用をちらつかせながら、早く賛成して出て行け、出て行かなければ家屋敷を取り上げるぞと、言っているのと同じこと、話し合いとは名ばかり、欺瞞にとんだ方便でしかありません。

○ 話し合いはダムの必要性から

長崎県は私たちが話し合いにまったく応じないといっているが、県は、石木ダム建設についてのお願いついてとしか言ってきてない、石木ダム建設に絶対反対の私たちがこのような話し合いに応じられるわけがない、私達は県に対し「ダム建設の必要性」「ダムに変わる方法が他にないか」などについて公開の場で話し合いをやりましよう、再三要請をしてきました、しかし話し合いに応じようとしな

かったのは長崎県でないのか。

○ 付け替え道路工事の強行

昨年3月県は、付け替え道路の工事を強行しようとしたましたが、私たちの強い反対に合い現在は中断しています、長崎県は、ダム建設と付け替え道路の工事は別ですから、付け替え道路の工事だけはさせてください、と言うがダム建設のための付け替え道路ではないのですか、石木ダムが要らなくなったら付け替え道路も不必要、私たちの同意なしではダムは絶対に出来ないのだから、税金の無駄遣いになります、私達はダム建設につながる、付け替え道路の工事は絶対に許しません。

○ 国からの再検証の要請

幸いに国から、ダムによらない治水・利水の見直しの再検証するよう県に求められました、私達は、地元住民と学識者を再検証の場に参加させるよう再三申し入れてきましたが、長崎県はこれをまったく無視し、長崎県と佐世保市長・川棚町長・波佐見町長の四者のみの検討の場とし、従来より計画されていた内容を説明するだけの検証・検討の場でおえている。これが本当に国が求めたダム見直しのための検証といえるのでしょうか、

○ 当初の石木ダム計画

当初長崎県は、石木ダム建設は針尾工業団地への配水と、佐世保市の人口増加に伴う水源確保です、治水は、「国の補助を多く貰う為のつけたしです」と私たちには説明していた、

1975年佐世保市は、水需要予測を今1日最大9310tですが10年後には、16万1400t必要になります、しかし佐世保には1日最大1万1千t取水能力しかありません、その為にも石木ダムがぜひ必要です、と説明されていた。

しかし現在では、人口の減少などにより1日最大11万7千tが必

要ですと説明されている、増加するはずの水需要予測が 35 年間で 5 万 t あまり減少したことになる、これならば石木ダムは建設する必要がないのではないか。

○ 佐世保市のずさんな水源確保

佐世保市は、「独自の水源確保に最大限努力してまいりました」と言っているが、下の原ダムの嵩上げにより 1 日 3 千 t 川棚川からの 5 千 t、等努力はされたようです、ではなぜ 35 年前に 1 日 11 万 1 千 t 有った取水量が今では 10 万 5 5 0 0 t なのでしょう、私は学問はありませんがこのくらいの計算は出来ます、 $111000 + 3,000 + 5000 = 119000$ t に成ります、他にも努力されているのですからまだ増えるかもしれませんが、数字が出されていないので 2 箇所を比較しますと、増えているのではなく 13500 t も取水量が減少してます、佐世保市はこの 35 年間取水量を増やすための努力ではなく、石木ダムを造るため取水量を減らす努力をやってきたのではないのですか。

○ 代替案について

長崎県は、先の検証・検討の場において多くのダムに寄らない代替案を提案なされました、しかしいずれもダム建設より高くつく為ダム建設が最善であると説明されています、それは私たちがそこに生活していることを考慮したうえでのことでしょうか、私たちが犠牲にしてでもダム建設が安くつくと言うことは、私たちが物を物としか思っていないのですか、石木川は夏にはホタルが飛び交い、大勢の人たちが遊泳を楽しめる、長崎県でも数少ない自然豊かなところでもあります、ダム建設が安くつくからと言って自然環境を破壊してでもダムの底に沈めることが最善のことでしょうか、自然環境は破壊してしまったら二度と再生できません、どちらが安くつくか常識ある人は判断できると思います。

○ 代替案が安くなる努力をなささい

代替案が高くつくと長崎県は言っていますが、代替案が安くなる努力はされているのでしょうか、石木ダム建設を前提として代替案を高く見積もっているのではないのですか、

○ 治水の見直し

長崎県は100年に一度の大雨(時間雨量110mm)を想定し治水計画を立て石木ダム建設の必要性を強調しているがほんとうに必要なのでしょうか、

大阪府では、橋下知事が槇尾川ダムについて100年に一度の大雨「時間雨量80mm」に対応する高い治水目標では、実現性が薄いとして見直しを決定、30年に一度の大雨(時間雨量65mm)に対応できる水準に変え、河川の拡幅や掘削で対応する代替案に変更しダム建設の中止をしている。

(このダムは2010年3月時点で用地の95%改修済み、付け替え道路の45%が完成、09年には本体工事が着手されている)。

川棚川でも100年一度降るか降らないか分からない大雨でなく50年に一度の大雨(時間雨量95mm)に対応できる設計でもいいのでは、

現在の川棚川の河川整備は、河川流下能力が山道橋地点で毎秒1130tこれは50年一度降るといわれる大雨を想定して有るそうで、ちなみに、平成2年の大雨は山道橋地点で最大が毎秒830tであったと言われてます、これだと後300tも余裕があるわけですので、50年に一度降る大雨でも十分に対応できるのではないのですか。

○ 利水の見直し

利水の代替案は、石木ダム建設を前提に1日4万トンが必要と言われているに過ぎない、最大給水量の見直しと、漏水対策をしっかりやれば十分に足りているはず、もし必要であれば1日1万トンほどの取水設備を作れば石木ダムを造るより安く早くできる。

多くの佐世保市民は私たちが犠牲にしてまで石木ダムは必要ないと、
思っておられるはず、

一部の佐世保市民の方には、本当のことを知らず平成 7 年の大渇水
の時は苦勞した、何年かに一度の給水制限がなくなるよう私たちが
犠牲にしても、早くダムを造ってほしいと言われる人もいる。

特に佐世保市長は正月の元旦早々ダムを作らせてくれと、家庭訪問
する人である。

私達は、石木ダム建設計画が持ち上がってから半世紀あまりこの問
題とともに人生を歩いてきた、石木ダム建設計画によって人生が犠
牲になったと言っても過言ではない、数年に一度の給水制限での苦
勞とは比べ物にならない、本当に水が必要と言うなら石木ダムに頼
らず佐世保市は佐世保で解決すべきこと、私たちが犠牲にせず。

苦しんでいる。

最後に、私達は石木ダムの不必要性を訴え石木ダム建設絶対反対を
訴えてきた、今この機会に長崎県は石木ダム建設の再・再検証を行
い石木ダム建設計画の白紙撤回をするべきだ。

私たちの気持ちを踏みねじり、私たちの同意かないままダム建設を
強行するならば、私達は石木ダム建設計画を白紙撤回させるまで戦
い抜く。

これは、石木ダム建設絶対反対同盟全員の一致した考えである。